



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月10日

上場会社名 株式会社アイビス 上場取引所 東
 コード番号 9343 URL <https://www.ibis.ne.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）神谷 栄治
 問合せ先責任者（役職名）取締役管理部門担当（氏名）河村 栄治（TEL）052-587-5007
 半期報告書提出予定日 2026年8月10日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期中間期	3,008	26.5	636	11.1	653	14.3	456	19.6
2025年12月期中間期	2,378	—	573	—	571	—	381	—

（注）包括利益 2026年12月期中間期 456百万円（19.6％） 2025年12月期中間期 381百万円（—％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	24.76	23.62
2025年12月期中間期	20.86	19.84

- （注）1. 2025年12月期中間期より中間連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。
2. 2025年12月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年12月期中間期の各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。
3. 当社は、2025年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2025年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益を算定しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期中間期	4,620	3,168	67.6
2025年12月期	4,187	2,899	67.8

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 3,123百万円 2025年12月期 2,838百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2026年12月期	—	0.00	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	—	—	12.00	12.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,454	9.0	1,355	12.8	1,362	12.1	940	10.8	51.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社（社名） ー、除外 1社（社名） 株式会社ゼロイチスタート

（注）株式会社ゼロイチスタートは、2026年4月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年12月期中間期	18,465,530株	2025年12月期	18,416,095株
2026年12月期中間期	330株	2025年12月期	330株
2026年12月期中間期	18,438,687株	2025年12月期中間期	18,299,890株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料7ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 中間連結貸借対照表	8
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	12
(セグメント情報等)	12
(企業結合等関係)	13
(収益認識関係)	14
(重要な後発事象)	15

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間の我が国経済は、賃上げや雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復が続きました。一方で、物価上昇や為替変動の影響により、個人消費には慎重な動きもみられました。また、金利上昇、米国の通商政策、中国経済の停滞、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢等の地政学リスクもあり、先行きは引き続き不透明な状況となっております。

このような環境下において、当社は「モバイル」「ソリューション」「AI歌声合成」の3つを事業セグメントとして、当社の強みである高度な技術力、スピーディな意思決定、AIを活用した業務効率の向上を軸に事業を推進いたしました。当社は、世界的なユーザー基盤を持つ自社プロダクト事業と、国内で安定した需要を持つソリューション事業、そしてAI技術を活かした新規領域の拡大を組み合わせることで、持続的な成長を目指しております。

「モバイルセグメント」では、モバイルペイントアプリ「ibisPaint」シリーズの開発・運営を進めました。同アプリは世界200以上の国と地域で利用され、MAUは4000万人、累計ダウンロード数は5.5億件を超えております。ユーザーの約9割が海外で、25歳未満の若年層が中心であることから、当社はAIを活用した描画支援機能や、使いやすさを高めるUI改善に継続して取り組みました。また、サブスクリプション課金への誘導、PC版を含むマルチデバイス展開、プロユーザー向け機能の拡充により、収益基盤の強化を進めました。

「ソリューションセグメント」では、国内企業向けにインターネット端末向けWebアプリケーションの開発やクラウド構築支援を行い、企業のDX需要の高まりに対応いたしました。当社は優秀なITエンジニアの採用・育成を継続し、AI駆動開発技術を活用した開発効率化にも取り組んでおります。また、2025年11月に完全子会社化した株式会社ゼロイチスタートについて、2026年4月1日付で当社が吸収合併し、国内市場における開発体制の強化と事業基盤の拡大を進めました。これにより、安定的かつ高再現性のある次世代のSIモデルの構築を目指しております。

「AI歌声合成セグメント」では、名古屋工業大学発ベンチャーである株式会社テクノスピーチの世界最先端の技術を活かし、AI歌声合成アプリ「VoiSona(ボイソナ)」を中心に事業を展開いたしました。国内外の著名アーティストによるボイスライブラリの拡充、モバイル領域への展開、アプリ課金型の収益モデル構築等、AI技術を活かした新しい音楽制作体験の提供に取り組みました。クリエイター層の拡大が続く中で、次世代の創作活動を支える基盤づくりを進めております。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高3,008,875千円(前年同期比26.5%増)、営業利益636,960千円(同11.1%増)、経常利益653,174千円(同14.3%増)、親会社株主に帰属する中間純利益456,491千円(同19.6%増)となり、売上高は20%を超える成長を継続し、各利益項目についても二桁増益となりました。なお、株式会社テクノスピーチは前中間連結会計期間の第2四半期より、株式会社ゼロイチスタートは当第1四半期連結累計期間より、それぞれ損益の連結を開始し、これらも寄与した結果、増収増益となりました。

事業セグメント別の状況は、以下のとおりであります。

<モバイルセグメント>

当中間連結会計期間において、主力製品であるモバイルペイントアプリ「ibisPaint」は、世界的な利用拡大が続きました。2025年9月10日に累計5億ダウンロードを突破し、2026年6月末時点では5億5438万ダウンロード（前年同期比14.0%増）に達しました。世界200以上の国と地域で利用され、MAU4000万人という大規模なユーザー基盤が、当社のモバイル事業の成長を支えています。

アプリは継続的な改善を進めており、Ver. 13. 1. 18からVer. 14. 0. 4まで複数のアップデートを実施し、ユーザーの創作活動を後押しする取り組みとして、季節やトレンドに合わせた素材コンテスト（第49回）を開催いたしました。2026年3月31日の大型アップデート「Ver. 14. 0. 0」では、CMYK出力・モノクロ2階調出力等、印刷・出版やプロ制作に近いワークフローを支える機能を追加したほか、ブラシをカテゴリ別に整理して直感的に選べる「ブラシカテゴリ」、作品や用途ごとに複数のカラーパレットを管理できる「カラーパレットのグループ化」等、創作環境を大きく向上させる新機能を多数リリースいたしました。これらの一部はプレミアム会員向けの提供であり、サブスクリプション課金契約数の増加に寄与しております。また、開発におけるコーディングAIの活用を本格化させ、2026年中に導入予定の従量制課金モデル「スマートクレジット」を含めた新機能の開発を大きく前進させたほか、YouTube公式チャンネルでの新機能紹介動画配信をはじめとする宣伝コンテンツの強化を行い、ユーザーの継続利用を促進いたしました。

さらに、従来から実施している契約促進施策のほか、2025年12月下旬に導入した「ibisPaint」サブスクリプション課金契約数の増加を目的とした新しい広告投資モデルも奏功した結果、当中間連結会計期間の同アプリに係るサブスクリプション課金契約の純増数は8万6895件と、前中間連結会計期間における同契約の純増数の7万1736件を大きく上回って推移いたしました。

加えて、当社は創作領域以外にも技術活用を進めており、企業向けAIクラウドサービス「ibisWorks」を展開しております。その中核製品であるAI議事録サービス「ibisScribe」は、2026年2月4日に開催された「AI PRODUCTS NEXT AI TREND 2026」において「議事録作成AI部門」に選出・表彰され、当社の高いAI技術が外部からも評価されました。

以上の結果、モバイルセグメントの売上高は1,661,510千円（前年同期比21.9%増）となりました。売上区分別の国内売上高及び海外売上高は以下のとおりであります。

		前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)		当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)		
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	増減率 (%)
サブスクリプション課金	国内売上高	149,492	28.7	200,140	22.9	33.9
	海外売上高	371,744	71.3	674,398	77.1	81.4
	計	521,237	100.0	874,538	100.0	67.8
売切型アプリ	国内売上高	32,093	24.9	29,917	20.4	△6.8
	海外売上高	96,969	75.1	116,802	79.6	20.5
	計	129,063	100.0	146,720	100.0	13.7
アプリ広告	国内売上高	156,425	22.1	112,772	18.3	△27.9
	海外売上高	552,838	77.9	503,809	81.7	△8.9
	計	709,263	100.0	616,581	100.0	△13.1
合計(その他含む)	国内売上高	340,359	25.0	348,923	21.0	2.5
	海外売上高	1,022,096	75.0	1,312,587	79.0	28.4
	計	1,362,456	100.0	1,661,510	100.0	21.9

売上区分別では、以下の傾向が見られました。

・サブスクリプション課金

「ibisPaint」における新しい広告投資モデルや契約促進施策等が奏功し、売上高は874,538千円(前年同期比67.8%増)と大幅に伸長いたしました。国内売上は前年同期比で33.9%増、特に海外売上は81.4%の高い伸びを示しました。これにより、サブスクリプション課金契約数は48万4535人(前年同期比59.5%増)に達し、同課金が収益の主軸へ転換したことが鮮明となりました。

・売切型アプリ

サブスクリプション課金への移行が進んでいるものの、同課金に抵抗がある一定のユーザーのニーズを的確にとらえた結果、売上高は146,720千円(前年同期比13.7%増)となりました。国内売上は前年同期比で減収となった一方、海外売上が堅調に伸びたことで、売切型アプリ全体としては増収となりました。

・アプリ広告

無料ユーザー層の利用は引き続き堅調で、DAU(日次アクティブ・ユーザー)は高い水準を維持いたしました。しかし、広告市況の変動や配信アルゴリズムの調整によりeCPM(広告単価)が下振れし、売上高は616,581千円(前年同期比13.1%減)となりました。海外売上は前年同期比で小幅な減少にとどまったものの、国内売上がより大きく減少したことが影響し、アプリ広告全体としても減収となりました。

なお、2024年12月期からオーガニック成長へ転換して以来、効果的な広告投資を継続した結果、セグメント利益は806,429千円(前年同期比13.1%増)となりました。計画のとおり、当第1四半期連結累計期間から、サブスクリプション課金売上がアプリ広告売上を上回ったことで、収益構造はより安定的な形へと進化しております。

<ソリューションセグメント>

当中間連結会計期間において、企業のWebアプリケーション開発を取り巻く環境は、生成AIの急速な普及を背景に大きな転換期を迎えております。そのような中、エンドユーザー企業との直接取引による受託開発案件の獲得を強化するとともに、新たな営業手法の検討に取り組みました。また、AI駆動開発による生産性向上を背景に、より高付加価値な案件への対応力強化を進めました。

受託開発事業では、上流工程や高付加価値案件への対応力の向上に取り組むとともに、ITエンジニアのスキル層に応じた適正配置や開発体制の整備を進めました。その結果、案件単価及び収益性の改善につながりました。また、当社はAIを活用した業務運営の高度化を継続して推進しており、社内勉強会やeラーニング研修を通じて、ITエンジニアのスキルアップと作業効率向上を両立させております。これにより、複数案件を並行して進められる体制が整い、生産性向上に寄与いたしました。さらに、AI駆動開発の活用による開発スピードの更なる向上にも取り組んでおり、開発工数と品質確保の両立を図っております。今後は、開發生産性の向上に見合う案件を確保するため、営業体制の強化を最優先課題の一つと位置付け、積極的な人員拡充・営業手法の多様化を進めてまいります。

IT技術者派遣事業では、当中間連結会計期間を通じて複数の法人顧客における安定的な受け入れが継続いたしました。ITエンジニアのAI活用も順調に進んでおり、開発リソースが安定化したことで、現場体制及び収益力の強化が一層進展いたしました。

さらに、完全子会社である株式会社ゼロイチスタートを2026年4月1日付で吸収合併いたしました。同社が有する事業コンサルティングの知見、SEOノウハウ等を取り込みながら、AI駆動開発体制の整備を急速に進めました。実案件を通じてAI駆動開発の運用ノウハウをさらに蓄積し、開発精度の向上を重ねることで、当社が目指す「次世代のSIer型事業モデル」への転換を加速し、より高い再現性と収益性を備えた事業基盤の構築を進めてまいります。

以上の結果、ソリューションセグメントの売上高は1,281,871千円（前年同期比29.9%増）となりました。なお、当第1四半期連結結果計期間より株式会社ゼロイチスタートの損益を連結に取り込んでおります。売上区分別では、以下のとおりであります。

・受託開発

売上高は553,848千円（前年同期比130.3%増）となりました。上流工程や高付加価値案件にも対応できる体制整備を進めるとともに、Webアプリケーション領域を中心とした開発体制の強化が奏功し、半期として過去最高の売上を記録いたしました。AIツール活用による生産性向上も寄与し、受託開発が当セグメントの成長を力強く牽引いたしました。引き続き、今後の案件対応力と収益基盤の強化につながる体制を整えてまいります。

・IT技術者派遣

売上高は724,763千円（前年同期比2.9%減）となりました。受託比率増加施策の推進によりわずかに減収となったものの、複数の法人顧客における安定的な受け入れが継続いたしました。

のれん償却額は23,281千円を計上しており、償却期間は7年としております（なお、こののれんは、株式会社ゼロイチスタートのM&Aに伴い計上したものであり、現時点ではPPA（取得原価配分）前の暫定的な金額であります。今後、PPA手続きの完了に伴い、無形資産への配分額や償却スケジュールが確定する予定であり、確定後は適切に開示してまいります）。これらを踏まえた結果、セグメント利益は168,906千円（前年同期比20.3%増）となりました。

<AI歌声合成セグメント>

当中間連結会計期間において、株式会社テクノスピーチは、BtoC向けのVoiSona事業と、BtoB向けの受託開発事業を中心にAI音声合成・AI歌声合成技術を活用した事業活動を推進いたしました。AI歌声合成市場は、クリエイター層の拡大や動画プラットフォームの成長を背景に、国内外において今後も成長が期待されており、同社は技術力と開発スピードを強みに事業拡大を進めました。

VoiSona事業では、新たに「ナースロボ__タイプT」(トーク)、「ふたばこみなと」(ソング)、「一花」(ソング)、「ray」(ソング・トーク)及び「樋辻滯」(ソング)をリリースいたしました。中でも「ray」については東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校(通称:ソミダ)の学生による声(複数)とキャラクターイラストを用いた製品となっており、全8校舎へのVoiSona導入等、産学連携が進展いたしました。また、これまで有償で提供していたクロスリンガル版ソングボイス「Chis-A」の無償化を実施し、海外ユーザー層の拡大を図りました。加えて、ユーザー体験の向上を目的に、アプリの駆動効率化やメモリ削減、PC版ソングアプリへの「多言語表示機能(6言語)」の追加、iOS版への「10秒お試し機能」や「サンプル付きスタート画面」の導入、開発効率化に向けたソングエディタのソース統合(ワンソース化)等、継続的な機能改善を行いました。これらの改善により、国内外のユーザーが利用しやすい環境を整備し、VoiSona事業の基盤強化を図りました。

受託開発事業では、前連結会計年度から継続していた開発案件が完了した一方、各種ソフト・サービス・ゲーム等へのライセンス提供が継続し、収益を計上いたしました。また、歌声合成の精度向上に関する研究開発を進め、将来的な製品競争力の向上に向けた技術基盤の強化を図りました。両事業とも新規顧客獲得を目的とした販売促進活動を強化し、事業拡大に向けた取り組みを継続しております。

以上の結果、AI歌声合成セグメントの売上高は65,493千円となりました。売上区分別では、以下のとおりであります。

・VoiSona (BtoC)

売上高は51,159千円となりました。新規ライブラリのリリースや先行受注販売、アプリ機能の改善が寄与し、ユーザー基盤の拡大と収益基盤の強化が進みました。

・受託開発 (BtoB)

売上高は14,334千円となりました。前期からの案件完了により一部減少したものの、ライセンス提供による安定した収益を維持し、研究開発を継続いたしました。

技術関連資産償却額及びのれん償却額として30,221千円を計上し、当セグメントの損失は△39,291千円となりました。

なお、前年第1四半期は同社の損益が連結に含まれていないため、前年同期比は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の資産合計は4,620,619千円(前期末比10.3%増)となりました。これは主に、現金及び預金が2,461,600千円(前期末比18.2%増)、売掛金及び契約資産が650,656千円(前期末比2.9%増)であったこと等によるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債合計は1,452,380千円(前期末比12.7%増)となりました。これは主に、未払法人税等が247,511千円(前期末比7.0%増)、賞与引当金が138,948千円(前期末比7.0%増)であったこと等によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産合計は3,168,239千円(前期末比9.3%増)となりました。これは主に、利益剰余金が2,291,245千円(前期末比13.5%増)、資本金が417,340千円(前期末比1.5%増)であったこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前連結会計年度末に比べ378,412千円増加し、2,461,600千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動による資金の増加は742,847千円(前年同期は329,089千円の資金の増加)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益675,114千円の計上及び法人税等の支払額217,685千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動による資金の減少は144,086千円(前年同期は516,339千円の資金の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出22,725千円、無形固定資産の取得による支出98,474千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動による資金の減少は226,095千円(前年同期は160,750千円の資金の減少)となりました。これは、長期借入金の返済による支出54,422千円、配当金の支払額184,028千円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、2026年2月10日に公表の「2025年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」から変更ありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,083,187	2,461,600
売掛金及び契約資産	632,427	650,656
商品及び製品	1,890	1,494
貯蔵品	152	195
その他	130,537	138,766
貸倒引当金	△1,960	△1,938
流動資産合計	2,846,236	3,250,774
固定資産		
有形固定資産	22,328	41,967
無形固定資産		
ソフトウェア	227,022	258,565
のれん	616,431	569,911
技術関連資産	185,031	178,049
その他	1,050	960
無形固定資産合計	1,029,535	1,007,486
投資その他の資産	289,577	320,391
固定資産合計	1,341,442	1,369,844
資産合計	4,187,678	4,620,619
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,105	5,214
1年内返済予定の長期借入金	25,392	14,800
未払法人税等	231,340	247,511
賞与引当金	129,855	138,948
その他	713,400	914,868
流動負債合計	1,114,093	1,321,342
固定負債		
長期借入金	43,830	—
役員退職慰労引当金	60,136	63,296
その他	70,300	67,741
固定負債合計	174,266	131,037
負債合計	1,288,359	1,452,380
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,163	417,340
資本剰余金	408,764	414,942
利益剰余金	2,018,912	2,291,245
自己株式	△275	△275
株主資本合計	2,838,564	3,123,253
新株予約権	60,755	44,985
純資産合計	2,899,319	3,168,239
負債純資産合計	4,187,678	4,620,619

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
売上高	2,378,760	3,008,875
売上原価	932,005	1,140,316
売上総利益	1,446,755	1,868,558
販売費及び一般管理費	873,510	1,231,598
営業利益	573,245	636,960
営業外収益		
受取利息	294	1,614
為替差益	—	10,921
確定拠出年金返還金	1,052	1,381
受取報奨金	2,075	993
その他	562	1,640
営業外収益合計	3,984	16,552
営業外費用		
支払利息	263	281
為替差損	5,430	—
その他	121	57
営業外費用合計	5,816	338
経常利益	571,413	653,174
特別利益		
新株予約権戻入益	—	21,940
特別利益合計	—	21,940
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前中間純利益	571,413	675,114
法人税、住民税及び事業税	179,401	232,811
法人税等調整額	10,361	△14,188
法人税等合計	189,762	218,622
中間純利益	381,651	456,491
親会社株主に帰属する中間純利益	381,651	456,491

中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
中間純利益	381,651	456,491
中間包括利益	381,651	456,491
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	381,651	456,491

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	571,413	675,114
減価償却費	55,754	77,090
のれん償却額	11,619	46,520
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△21
受取利息及び受取配当金	△294	△1,615
支払利息	263	281
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△29,403	△18,228
棚卸資産の増減額(△は増加)	192	353
仕入債務の増減額(△は減少)	2,672	△8,890
賞与引当金の増減額(△は減少)	△176	9,092
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	6,906	3,160
新株予約権戻入益	—	△21,940
契約負債の増減額(△は減少)	59,881	80,475
未払金の増減額(△は減少)	△71,982	151,987
その他	△9,839	△34,141
小計	597,006	959,239
利息及び配当金の受取額	294	1,615
利息の支払額	△269	△321
法人税等の支払額	△267,942	△217,685
営業活動によるキャッシュ・フロー	329,089	742,847
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△22,725
無形固定資産の取得による支出	△71,054	△98,474
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△455,725	—
その他	10,439	△22,886
投資活動によるキャッシュ・フロー	△516,339	△144,086
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△14,454	△54,422
株式の発行による収入	—	12,355
配当金の支払額	△146,296	△184,028
財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,750	△226,095
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,086	5,747
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△352,087	378,412
現金及び現金同等物の期首残高	2,227,851	2,083,187
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,875,764	2,461,600

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当中間連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社ゼロイチスタートは、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	中間連結損益 計算書計上額 (注) 3
	モバイル	ソリューション	AI歌声合成 (注) 1	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,362,456	986,730	29,573	2,378,760	—	2,378,760
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,362,456	986,730	29,573	2,378,760	—	2,378,760
セグメント利益又は損失 (△)	712,820	140,381	△31,993	821,208	△247,963	573,245

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)のAI歌声合成事業の△31,993千円には、のれん償却額△11,619千円、技術関連資産償却額△3,491千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△247,963千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、株式会社テクノスピーチの全株式を取得し完全子会社化しております。それに伴い、「AI歌声合成セグメント」においてのれんが発生しております。

当該事象によるのれんの増加額は当中間連結会計期間において325,352千円であります。

なお、当該のれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 3	中間連結損益 計算書計上額 (注) 4
	モバイル	ソリューション (注) 1	AI歌声合成 (注) 2	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,661,510	1,281,871	65,493	3,008,875	—	3,008,875
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,661,510	1,281,871	65,493	3,008,875	—	3,008,875
セグメント利益又は損失 (△)	806,429	168,906	△39,291	936,044	△299,083	636,960

(注) 1. ソリューションセグメントの168,906千円には、のれん償却額△23,281千円が含まれております。

2. AI歌声合成セグメントの△39,291千円には、のれん償却額△23,239千円、技術関連資産償却額△6,982千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整額△299,083千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

5. 「(企業結合等関係)」の「(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)」に記載の取得原価の当初配分額の重要な見直しに伴い、前中間連結会計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(完全子会社の吸収合併)

当社は、2026年2月10日開催の取締役会の決議に基づき、2026年4月1日を効力発生日として、当社の完全子会社である株式会社ゼロイチスタートを吸収合併いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被結合企業の名称及び事業の内容

被結合企業の名称: 株式会社ゼロイチスタート

事業内容: ノーコード・ローコードシステム開発事業

(2) 企業結合日

2026年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、株式会社ゼロイチスタートを消滅会社とする吸収合併

(4) その他取引の概要に関する事項

①合併の目的

当社の完全子会社である株式会社ゼロイチスタートの強みである①事業コンサルティングの見識、②開発生産性が高いノーコードツールの運用知見、③SEOノウハウ等を当社のソリューション事業に取り込み、ブーストさせることによって、シナジー効果を最大化し、当社が目指すSIer化に向けた体制を更に加速させ、収益拡大を図ることを目的として、当該子会社を吸収合併することといたしました。

②合併に係る割当の内容

当社は、株式会社ゼロイチスタートの全株式を所有しており、本合併による新株式の発行及び合併交付金の支払いはありません。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2025年1月31日(みなし取得日 2025年3月31日)に行われた株式会社テクノスピーチとの企業結合について、前中間連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表に含まれる比較情報において、取得原価の当初配分額に重要な見直しを反映しております。

この結果、前中間連結会計期間の中間連結損益計算書は、技術関連資産償却額が3,491千円増加、のれん償却額が7,208千円、法人税等調整額が1,231千円減少しております。これらに伴い、営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益がそれぞれ3,717千円増加、中間純利益及び親会社株主に帰属する中間純利益が4,949千円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	モバイル	ソリューション	AI歌声合成	
アプリ広告	709,263	—	—	709,263
サブスクリプション	521,237	—	—	521,237
売切型アプリ	129,063	—	—	129,063
IT技術者派遣	—	746,288	—	746,288
受託開発	—	240,442	5,448	245,890
VoiSona	—	—	24,124	24,124
その他	2,891	—	—	2,891
顧客との契約から生じる収益	1,362,456	986,730	29,573	2,378,760
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,362,456	986,730	29,573	2,378,760

当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	モバイル	ソリューション	AI歌声合成	
アプリ広告	616,581	—	—	616,581
サブスクリプション	874,538	—	—	874,538
売切型アプリ	146,720	—	—	146,720
IT技術者派遣	—	724,763	—	724,763
受託開発	—	553,848	14,334	568,183
VoiSona	—	—	51,159	51,159
その他	23,670	3,259	—	26,929
顧客との契約から生じる収益	1,661,510	1,281,871	65,493	3,008,875
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,661,510	1,281,871	65,493	3,008,875

(重要な後発事象)

該当事項はありません。